

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	参加した零細漁民 100 人の本事業開始以前の一世代あたり平均月収が、約 60 万ルピアであったところ、現在、平均約 140 万ルピアに増加し、生活向上に寄与している。
(2) 事業内容	<p><u>2012 年 3 月 (21 日-26 日)</u> キックオフミーティング。本部事業担当者、現地在住専門家並びに 10 人のリーダーによる事業開始のための打合せを実施。</p> <p><u>2012 年 4 月</u> 作業小屋の整備。老朽化していた既存の作業小屋を 10 人のリーダーが自助努力で整備し、作業環境を改善。種苗の生産開始。養殖用筏作製に必要な資機材の調達と共に、オフボトムメソッド（海底に直接杭を打ちロープをはって海藻を育てる方法）による種苗養殖を開始。事業実施者の選抜。事業実施を望み、能力のある 58 人を選抜。</p> <p><u>2012 年 5 月</u> 本部事業担当者・本部専門家がセラング島のサイトを視察し（5 月 11 日-15 日）、種苗の育成状況、周辺環境の状況を確認。種苗湿重量約 600kg を確保。本部専門家による養殖事業に関するセミナー開催（5 月 13-15 日）。参加者、43 人。海外に於ける養殖の事例を紹介。種苗の準備、必要資機材の調達、養殖筏の作製、養殖作業指導、収穫・乾燥・保管の指導を実施。養殖筏資材の購入。養殖筏作製に必要な竹材、木杭、ロープ、etc を調達。筏 10 基作製。魚による食害が懸念され害魚防止ネットを付けた筏と付けない筏をそれぞれ 5 基ずつ作製し、筏の比較検討実験を開始。</p> <p><u>2012 年 6 月</u> 種苗湿重量約 900kg を確保。</p> <p><u>2012 年 7 月</u> 本部専門家による養殖事業に関するセミナー開催（7 月 10-15 日）。養殖事例視察のためレンボガン島へ体験学習を実施。本部事業担当者・本部専門家が第 2 期準備のためスンバワ島ビマ・ドンブ両郡を訪問。筏 30 基作製。</p> <p><u>2012 年 8 月</u> 本部専門家によるセミナー開催（8 月 25-26 日）、並びにスンバワ島ドンブ郡に於けるベースラインサーベイ開始。筏 40 基作製。筏 80 基による養殖開始。養殖ネットワーク拡大の準備開始。</p> <p><u>2012 年 9 月</u> 本部事業担当者がスンバワ島ドンブ郡でベースラインサーベイ実施。筏 40 基作製。事業期間を 2 ヶ月間延長。</p> <p><u>2012 年 10 月</u> 筏 40 基作製、養殖開始。協同組合設立の準備開始。第一次収穫として湿重量約 16,000kg、乾燥済キリンサイ約 3,000kg を収穫。</p> <p><u>2012 年 11 月</u> 筏 40 基作製。筏計 200 基の作製完了。必要に応じて筏の補修を実施。本部事業担当者がセラング島サイト並びにバリ島に於いて事業終了のための報告書作成・外部監査のための準備を開始。 11 月 30 日本事業終了。</p>

(3) 達成された成果

成果 1: 直接受益者である零細漁民 100 世帯の収入が増える。

指標 1-1: 100 人が養殖事業の基礎を習得し、養殖事業が収入を得るための一つの手段となるようにする。

→ キリンサイ養殖が収入源になったと回答した人は、11 月末事業終了まで参加した 100 人の内の 100%。

指標 1-2: 100 世帯のほとんどが、現在の平均月収約 60 万ルピア (60 米ドル) を 2 倍以上に増やすことが出来る。

→ 平均月収約 140 万ルピアになった。

成果 2: 直接受益者である女性に就労機会を与える

指標 2-1: 母子家庭や DV の犠牲になっている女性が、多少の現金収入を得ることで、その家族の生活向上に繋がる。

→ キリンサイ養殖に参加した女性の数は、32 人で、確実に収入が増え、家族の生活向上に繋がった。

指標 2-2: 一般女性が副収入を得ることで、今まで子どもに不足していた蛋白源や下痢止め、風邪薬などを購入出来、また、トイレや水周りの整備など住環境の改善に貢献することが出来る。

→ 収入増により、薬の購入が以前より楽になったと 32 人全員が回答した。

指標 2-3: 女性グループの組織化に向けた土台作りが出来る。

→ 女性グループの組織化は、リーダー数名が現在も取り組み中である。

成果 3: 直接受益者である零細漁民 100 人の種々の能力と知識が向上する。

指標 3-1: キリンサイの収穫、乾燥、管理等の工夫・自助努力によって製品の質の向上と収入の増大に繋がることを学ぶ。

→ 専門家による指導・セミナーや、体験学習により、新たな養殖方法の工夫 (ケージ方法) に参加者のほぼ全員がチャレンジした。また、体験学習を実施したレンボガン島から異種のキリンサイ (スピノーサム種) を持ち帰り、養殖を試み、収穫に成功した。

指標 3-2: 直接受益者である零細漁民 100 人が組織化され、養殖従事者の協同組合設立を目指すことが出来る。

→ 専門家による指導・セミナー、体験学習の実施、並びに、10 人のリーダーの自助努力により、参加者のほぼ全員が協同組合設立の意義について意識するようになり、第 2 期の事業実施期間中に養殖従事者協同組合設立の具体化に向けて取り組む予定である。

成果 4: 直接受益者の中の 10 人のリーダーが、他地域の漁民と協力・連携することの可能性と重要性を理解する。

指標 4-1: キリンサイ養殖事業従事者ネットワークを構築出来る。

→ 体験学習によりレンボガン島の漁民との情報交換、種苗の供与が実現し、現在も両島の漁民による交流が行われている。

指標 4-2: バリ州内外の近隣地域に、同事業を零細漁村の村興しのひとつのあり方 (パイロット) として紹介することが出来る。

→ 第 2 期に於いて、スンバワ島ドンブ郡フウ地区へ本事業を紹介し、活動を拡大する予定である。また、セランガンの事例を動画等で紹介し、啓蒙に役立てたい。

(4) 持続発展性

「死んでいた海（コンテナ湾）が息を吹き返した」という感謝のことばをクパラデサ（セラガン島の村長）から聞くことができた。その日暮らした零細漁民が、短期間に収入を増やすことができたのは、大きな成果である。また、元来、オフボトムメソッドで細々と海藻養殖を実施していた数少ない零細漁民が、初めて家族単位を越え、他の家族と共同作業を体験したことは、この島にとって大きな変化をもたらす第一歩となった。以後、第2期において、養殖事業を継続しながら、より安定的な生産、品質の向上、及び組合組織化への取り組み等を進めることができれば、かなり早い時期にキリンサイの養殖事業のみで安定した生活を維持できる世帯数は増加すると思われる。

これからの主な課題は、収穫量をさらに増やし、また、零細漁民自身の努力によって品質を向上させ、付加価値を付け販売価格等の改善を目指すことである。そのために必要な資機材の調達、筏等の補修にかかる費用などは、自然条件の著しい変化や製品の値崩れ等の状況が発生しないかぎり、当面、自助努力で実施できる段階にほぼ到達している。また、共同作業を通して、零細漁民が組織化されることのメリットも短い9ヶ月の間に自覚することができた。このように達成された事業の成果を持続的に確保し、養殖事業支援を継続することで、海藻養殖従事者によるバリ州最初の協同組合設立を目指す。以上を進めることで、近い将来、セラガン島に於けるキリンサイ養殖事業は、持続的かつ確実に零細漁民並びにその家族の収入源として定着していくと共に、企業ベースでない、漁民自身による養殖事業のパイロット的役割を担うことができるとと思われる。